

【報道関係各位】

2017 年 10 月 3 日
一般財団法人 日本気象協会

日本気象協会 2018 年 春の花粉飛散予測(第 1 報) 東北・関東甲信・四国では「多い」飛散量 東北は前シーズンの約 2 倍！

◆2018 年 春の花粉飛散予測のポイント (2017 年 10 月 3 日 発表)

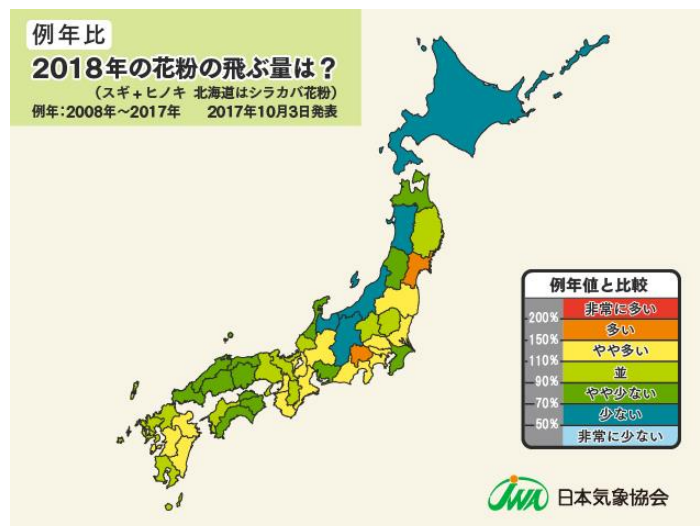
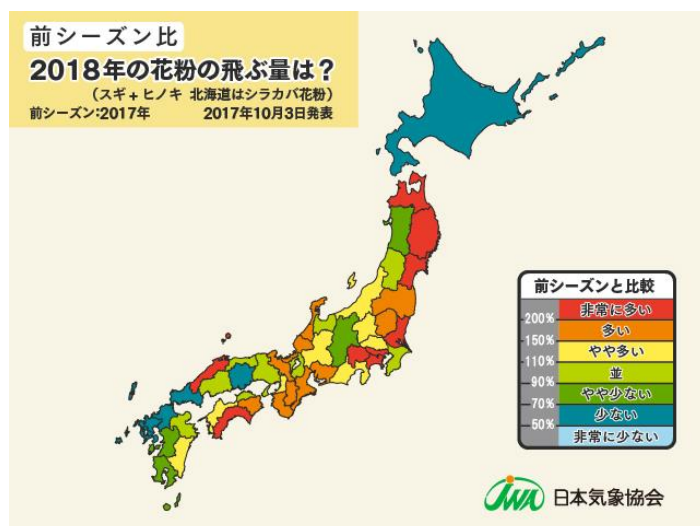
- ・東北、関東甲信、四国地方では前シーズンの 1.5 倍以上
- ・北海道は、例年比、前シーズン比ともに約半分の少なさ
- ・九州は、前シーズンに比べると少ないが、油断は禁物

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、会長：石川 裕己）は、2017 年 10 月 3 日（火）に全国・都道府県別の 2018 年春の花粉（スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ）飛散予測（第 1 報）を発表します。また、詳細な情報を、「2018 年春の花粉総飛散量 予測資料」として販売します。

1. 2018 年シーズンの花粉飛散傾向

2018 年春の花粉飛散予測は、東北から近畿、四国地方までの広い範囲で、前シーズンの飛散量を上回る見込みです。特に、東北、関東甲信、四国地方では、「非常に多い」飛散量の都道府県があり、注意が必要です。中国地方は前シーズン並み、北海道、九州地方は、前シーズンと比べると少ない予測となっています。

一方、例年比でみると、東海と近畿地方ではやや多く、東北と関東甲信、九州地方では例年並みとなるでしょう。北海道、北陸、中国、四国地方では例年を下回る見込みです。



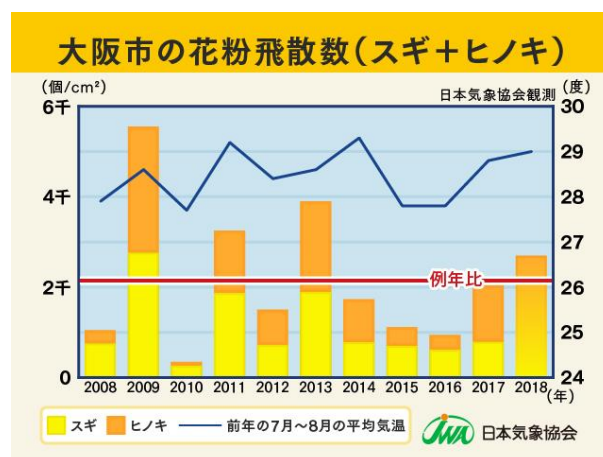
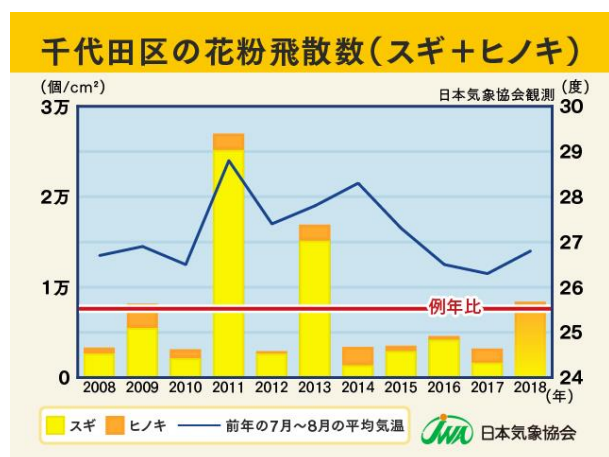
2. 飛散量の予測根拠

花粉の飛散量は前年夏の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の花粉の飛散量が多くなるといわれています。2017 年の夏は、全国的に気温が高く、日照時間も多くなりました。降水量は、北海道、東北、北陸で多くなりました。

3. 2017 年シーズンの花粉飛散状況まとめ

2017 年シーズンの花粉の飛散量は、北海道では例年並み、東北から中国、四国では例年より少なく、九州では例年より多くなりました。

また、東京と大阪の過去 10 年の飛散傾向を見てみると、2014 年までは、前年に比べて「多い」と「少ない」を繰り返していましたが、東京では 2015 年以降は飛散量に目立った増減がなく、例年の半分ほどの飛散量で推移しています。大阪では 2015 年、2016 年は例年の約半分の飛散量でしたが、2017 年は例年並みでした。また、花粉飛散量をスギとヒノキで分けてみると、西日本ではヒノキの飛散量の割合が東日本に比べて多く、特に近畿地方は、ヒノキの割合が 50%を上回る年もありました。



4. 各地域の花粉飛散傾向

地方	飛散量 (地方平均値%)		2017年夏の気象		
	例年比	前シーズン比	気温	降水量	日照時間
北海道	少ない (60%)	少ない (50%)	平年並	多い	平年並
東北	例年並 (100%)	多い (190%)	平年並	多い	平年並
関東甲信	例年並 (100%)	多い (160%)	高い	少ない	平年並
北陸	やや少ない (70%)	やや多い (130%)	平年並	かなり多い	多い
東海	やや多い (110%)	やや多い (120%)	高い	少ない	多い
近畿	やや多い (110%)	やや多い (120%)	高い	平年並	多い
中国	やや少ない (80%)	前シーズン並 (90%)	高い	平年並	多い
四国	やや少ない (80%)	多い (150%)	高い	平年並	多い
九州	例年並 (100%)	やや少ない (70%)	高い	少ない	多い



【花粉の種類について】

北海道はシラカバ、その他はスギ・ヒノキ花粉の飛散量を表します。

【飛散量に関する言葉の説明】

非常に多い	: 前シーズン (例年) の 200% 以上
多い	: 前シーズン (例年) の 150% 以上 200% 未満
やや多い	: 前シーズン (例年) の 110% 以上 150% 未満
前シーズン(例年)並	: 前シーズン (例年) の 90% 以上 110% 未満
やや少ない	: 前シーズン (例年) の 70% 以上 90% 未満
少ない	: 前シーズン (例年) の 50% 以上 70% 未満
非常に少ない	: 前シーズン (例年) の 50% 未満

前シーズン	: 2017 年シーズン飛散量
例年	: 過去 10 年(2008～2017 年)の平均値

【2018 年夏の気象に関する言葉の説明】

平年	: 1981～2010 年の平均値
----	-------------------

以上